

彙報

会長 福井直樹

——常任委員会——

2022年度第1回常任委員会

日時：2022年5月28日（土）13:00～16:00

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、有田節子、上山あゆみ、太田真理、北原真冬、桐生和幸、酒井弘、菅原彩加、成田広樹、原田なをみ（以上、常任委員）、石井透（事務局長）

オブザーバー：江畑冬生（大会運営委員長）、呉人恵（編集委員長）、那須川訓也（広報委員長）、田中真一（夏期講座委員長）、酒井弘（学会賞選考委員長）、小林正人（倫理委員長）、佐々木冠（国際発信力強化小委員長）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上事務局委員）

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第165回大会（2022年度秋季大会）：

2022年11月12日～13日、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）

第166回大会（2023年度春季大会）：

2023年6月17日～18日、専修大学（大会実行委員長：長谷川宏氏）

第167回大会（2023年度秋季大会）：

2023年11月11日～12日、同志社大学（大会実行委員長：星英仁氏）

第168回大会（2024年度春季大会）：日程未定、国際基督教大学

第169回大会（2024年度秋季大会）：

2024年11月9日～10日、北海道大学

(3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 事務局からの報告

1. 『言語研究』の公開入札について

『言語研究』第162号、第163号の出版について、5月6日公示、6月6日締め切り、6月9日開札の予定で一般競争入札を行う。

2. 今年度のメルマガスケジュールについて

今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。

3. 日本学術振興会学振賞について

1名を推薦した。

4. 日本学術振興会育志賞について

該当者がなく推薦を見送ることが報告された。

5. 『言語研究』162号への追悼文掲載について

『言語研究』162号に国広哲弥氏の追悼文を掲載することが報告された。

6. 国際言語学者会議について

第21回 International Congress of Linguistics (ICL21) の開催が1年延期となり、2024年9月22日～28日の予定でポーランドのAdam Mickiewicz University (アダム・ミツキエヴィチ大学) に変更されることが報告された。

(5) シニア会員制度について

・今年度より運用を開始したシニア会員制度について、ウェブサイトやメールマガジンにて告知を行い、対象者へ連絡をしたことが報告された。併せて、若手会員を対象とした意識調査を行う予定であることが報告された。

(6) 2021年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト実施報告について

・1件のプロジェクトの実施報告書、会計報告書を確認した。

(7) 2022年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト（採否）について

・3件の申請について、メール審議により2件を採択としたことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2021 年度決算について
 - ・2021 年度決算書について検討を行い、それを承認した。
- (2) 2022 年度予算について
 - ・2022 年度予算について審議し、それを承認した。
- (3) 倫理委員会委員の再任について
 - ・現状、1 年の任期で半年ごとに半数を入れ替えている倫理委員会委員について、任期中に倫理委員会の係る事案が起らない場合には原則としてもう 1 年再任することが提案され、承認された。

——評議員会——

2022 年度第 1 回評議員会

日 時：2022 年 6 月 17 日（金）15:00～17:00

場 所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、青木博史、有田節子、石井 透、伊藤たかね、上山あゆみ、江口 正、江畑冬生、大津由紀夫、荻野綱男、奥 聡、尾谷昌則、小野尚之、小野 創、風間伸次郎、加藤重広、河内一博、岸本秀樹、木部暢子、Catt Adam、桐生和幸、金水 敏、久保智之、窪菌晴夫、窪田悠介、呉人 恵、小林正人、斎藤 衛、酒井 弘、佐々木冠、杉崎鉦司、滝浦真人、田窪行則、竹沢幸一、塚本秀樹、中川 裕、長屋尚典、中山俊秀、那須川訓也、西村義樹、新田哲夫、野田尚史、長谷川信子、林範彦、早津恵美子、広瀬友紀、益岡隆志、松浦年男、山越康裕、由本陽子、吉田和彦（以上、評議員 50 名）

委任状：17 名

オブザーバー：上野善道（顧問）、藤代 節、米田信子（以上、会計監査委員）、田中真一（夏期講座委員長）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上、事務局委員）

議事に先立ち、2 月 6 日に逝去された国広哲弥氏、4 月 1 日に逝去された高見健一氏のご冥福をお祈りし、黙祷が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 165 回大会（2022 年度秋季大会）：2022 年 11 月 12 日～13 日、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡 敏氏）
 - 第 166 回大会（2023 年度春季大会）：2023 年 6 月 17 日～18 日、専修大学（大会実行委員長：長谷川宏氏）
 - 第 167 回大会（2023 年度秋季大会）：2023 年 11 月 11 日～12 日、同志社大学（大会実行委員長：星 英仁氏）
 - 第 168 回大会（2024 年度春季大会）：日程未定、国際基督教大学
 - 第 169 回大会（2024 年度秋季大会）：2024 年 11 月 9 日～10 日、北海道大学
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告
 1. 『言語研究』の公開入札について
 - 6 月 9 日に開札を行った結果、今年度も『言語研究』の印刷を中西印刷に委託することが決定した。
 2. 今年度のメルマガスケジュールについて
 - 今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。
 3. 日本学術振興会学振賞について
 - 1 名を推薦した。
 4. 日本学術振興会有志賞について
 - 該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
 5. 『言語研究』162 号への追悼文掲載について
 - 『言語研究』162 号に国広哲弥氏の追悼文を掲載することが報告された。
 6. 国際言語学会議について
 - 第 21 回 International Congress of Linguistics (ICL21) の開催が 1 年延期となり、2024 年 9 月 22 日～28 日の予定でポーランドの Adam Mickiewicz

University (アダム・ミツケヴィチ大学)に変更されることが報告された。

- (5) シニア会員制度について
- ・今年度より運用を開始したシニア会員制度について、ウェブサイトやメールマガジンにて告知を行い、対象者へ連絡をしたことが報告された。併せて、若手会員を対象とした意識調査を行う予定であることが報告された。
- (6) 2021年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト実施報告について
- ・1件のプロジェクトの実施報告書、会計報告書を確認した。
- (7) 2022年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト(採否)について
- ・3件の申請について、メール審議により2件を採択としたことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2021年度決算について【別表1参照】
- ・2021年度決算書について検討を行い、それを承認した。
- (2) 2022年度予算について【別表2参照】
- ・2022年度予算について審議し、それを承認した。

——編集委員会——

- (1) 2021年度の『言語研究』への投稿(初回・修正含む)ならびに審査状況は、下記の通りである。

	全体	一般論文	特集論文(見込み)	フォーラム	書評論文	書評・紹介
投稿数	42	33	4	5	0	0
審査終了数	20	18	0	2	0	0
採択数	8	7	0	1	0	0
採択率	19.0	21.2	0.0	20.0	0.0	0.0
不採択数	12	11	0	1	0	0
不採択率	28.6	33.3	0.0	20.0	0.0	0.0

- (2) 『言語研究』162号(2022年9月刊行)への掲載は、特集論文(徳瀬)2本、一般論文4本、フォーラム1本の計7本となった。また、国広哲弥先生(言語学会元会長・顧問)の2022年2月6日のご逝去を受け、3名の方が追悼文を寄稿してくださることとなった。
- (3) 現在、『言語研究』は未公開論文の投稿のみを認めているが、J-STAGEがプレプリント公開サーバJxivの運用を開始したことを受け、編集委員会ではその扱いについて検討することとなった。メリット・デメリットを十分に精査したうえで、今年度中の方針決定を目指したいと考えている。
- (4) 『言語研究』掲載論文の個人HPや所属機関等のレポジトリでの公開は、「日本語学会著作権取り扱い規程」に従って事前に学会に通知していただければ、問題ないことを確認した。

——大会運営委員会——

2022年度第1回大会運営委員会

日時: 2022年4月10日(日) 10:00 ~ 12:00

場所: オンライン

出席者: 江畑冬生(大会運営委員長), 浅原正幸, 大滝宏一, 大島デイヴィッド義和, 衣畑智秀, 金 廷珉, 黒木邦彦, 品川大輔, 柴崎礼士郎, 白井聡子, 星 英仁, 松浦年男, 米山聖子(大会運営委員)

[審議事項]

- (1) 第163回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき、口頭発表41件(応募55件), ワークショップ6件(応募6件), ポスター発表5件(応募7件)を採択することとした。なお採否決定後に、口頭発表1件の発表辞退があった。
- (2) 第163回大会のプログラム編成を行った。口頭発表は1日目に6会場の各6件ずつ(午前3件午後3件)とし、Zoom ミーティングで開催することを決定した。さ

らに各発表をセッションに振り分け、司会者候補を決定した。

- (3) 1日目の口頭発表終了後にoViceを用いてポスター発表を行い、同じ会場で引き続き懇親会を開催することを決定した。
- (4) 2日目の午前中にワークショップを割り当て、午後に会長挨拶・授賞式・会員総会・会長就任講演及び公開特別シンポジウムを行うことを決定した。
- (5) 第164回大会での大会参加証の発行や運営委員内での役割分担に関して協議した。
- (6) 第165回大会の開催方式に関して協議した(その後、常任委員会での討議と評議員会での承認を経て、オンライン開催への変更を決定した)。

——広報委員会——

1. 学会ウェブサイトの学会からのお知らせ(大会情報、学会プロジェクト、『言語研究』など)と学会関連情報(公募情報、研究会情報など)を随時更新した。
2. TwitterとFacebookで、学会からのお知らせを随時発信した。
3. YouTubeチャンネルで、大会公開シンポジウム、および「英文要旨作成WS第2回2021」の動画を公開した。
4. 学会ホームページのシステム入れ替えについて
現在のシステムはかなり古いため、表示、リンクの取り付け、セキュリティ等の問題が生じている。これを承け、システム入れ替えをするための計画案を協議の上、作成した。今後ワーキンググループを中心に協議を重ね、最終的に言語学会としてデザイン等を決定する。その後、業者の見積もりを参考に、正式に予算を組む予定である。

——夏期講座委員会——

夏期講座委員会(2022年2月22～28日:メール審議)

[審議事項]

夏期講座2022(8月30日(火)～9月3日(土)オンライン開催、ホスト校・東北大学)について、以下の2点を審議の上、決定した。

- (1) 時間割を下記の通り決定した(科目・講師は決定済み)。

1限(10:20～12:00)

A会場 フィールド言語学(初級) 林範彦(神戸市外国語大学)

B会場 形式意味論(初級) 楠本紀代美(関西学院大学)

C会場 日本語文法(中上級) 加藤重広(北海道大学)

2限(13:00～14:40)

A会場 音声学(初級) 朱春躍(神戸大学)

B会場 形態論(初級) 大関洋平(東京大学)

C会場 歴史言語学(中上級) アダム・キャット(京都大学)

3限(15:00～16:40)

A会場 認知言語学(初中級) 上原聡(東北大学)

B会場 社会言語学(中級) 仲尾周一郎(大阪大学)

C会場 生成文法(中上級) 高野祐二(金城学院大学)

- (2) 中日(9月1日(木))のイベントについて、スケジュールを以下の通り決定した。

1限(10:20～12:00) 参加者によるポスターセッション

2限(13:00～14:40) 講師オフィスアワー

3限(15:00～16:40) 特別講演「文字と言語」八杉佳穂(国立民族学博物館名誉教授)

[報告事項]

- (1) 夏期講座2022の公式ウェブサイトを開設した。

- (2) 参加申し込みフォームを開設し、申し込み期間を2022年4月1日～8月23日とした。
- (3) 上記を言語学会ウェブサイトに掲載するとともに、ポスター・チラシを作成し各所に配布した。

——倫理委員会——

- (1) 2022年度の委員は以下のとおりである。
(2022年9月までの委員)

小林正人	東京大学（委員長）
大崎紀子	京都大学羽田記念館
折田奈甫	早稲田大学
宮本陽一	大阪大学

- (2022年4月～2023年3月までの委員)

上田由紀子	山口大学
（副委員長：2022年10月から委員長）	
江口 正	福岡大学
太田真理	九州大学
塩原朝子	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所

- (2) 倫理委員会内規の英語版（案）を作成し、4月30日に会長に提出した。

——国際発信力強化小委員会——

- (1) 2021年度に英訳した会長就任記念論文5本（柴谷先生、梅田先生、松本先生、小泉先生、国広先生）を組み版したPDFを作成し2022年6月20日にJ-STAGEで公開した。新たに会長就任記念論文5本（福井先生、井上先生、川本先生、西田先生、服部先生）の英訳・校閲作業を進めている。2022年度は合計10本の英文化論文を公開する予定である。
- (2) 2022年度は英文レビュー作成ワークショップと講演会を計画している。

——事務局——

2021年度会計監査

日 時：2022年5月20日（金）13:00～15:00
場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：藤代 節、米田信子（以上2021年度会計監査委員）、石井 透（2021年度事務局長）、国料尚子（事務支局）

藤代 節、米田信子両委員により2021年度決算書と関係書類について監査が実施された。

【別表 1】2022 年度日本言語学会決算

自 2021 年 4 月 至 2022 年 3 月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	11,831,500	刊 行 費	2,815,450
雑 誌 売 上	859,600	発 送 費	320,089
科学 研究 費 補 助 金	4,000,000	事 務 委 託 費	4,500,870
科学 研究 費 補 助 金 利 息	16	大 会 関 係 費	2,644,779
預 金 金 利	243	評 議 員 会 費	0
大 会 関 係 取 入	1,959,000	常 任 委 員 会 費	78,000
夏 期 講 座 関 係 取 入	0	編 集 委 員 会 費	617,984
広 告 料	0	大 会 運 営 委 員 会 費	121,350
寄 付 金	276,132	広 報 委 員 会 費	465,000
雑 益	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	18,000
基金 からの 繰 り 入 れ	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	0
夏 期 講 座 準 備 費 返 納	0	倫 理 委 員 会 費	32,000
		国 際 情 報 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	2,306,920
		事 務 局 費	641,080
		学 会 賞 費	90,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	500,000
		夏 期 講 座 経 費	8,000
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	0
		通 信 費	536,168
		消 耗 品 費	151,414
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	341,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	32,564
		(基 金 へ の 繰 入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
取 入 合 計	18,926,491	支 出 合 計	18,160,668
前 期 繰 越 金	9,007,036	次 期 繰 越 金	9,772,859
合 計	27,933,527	計	27,933,527

◇収入内訳（単位：円）

会費		
	国内通常会員	10,390,000
	国内維持会員	20,000
	国内学生会員	808,000
	国内団体会員	465,500
	国内賛助会員	30,000
	在外通常会員	98,000
	在外学生会員	20,000
	合 計	11,831,500
雑誌売上		
	書店販売	851,600
	松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	624,800
	丸善雄松堂	144,900
	紀伊國屋書店	75,600
	その他書店	6,300
	事務局販売	8,000
	合 計	859,600
科学研究費補助金		4,000,000
科学研究費補助金利息		16
預金金利		243
大会関係収入		
	大会参加費	1,959,000
	第 162 回大会	954,000
	第 163 回大会	1,005,000
	大会出店料	0
	予稿集売上	0
	託児関係収入	0
	合 計	1,959,000
広告料		0
寄付金		0
雑益		
	2020 年度多様性プロジェクト残額返金	232,822
	言語系学会連合補助金（第 162 回大会）	30,000
	言語系学会連合補助金（第 163 回大会）	13,310
	合 計	276,132
基金から繰入		0
夏期講座準備金返納		0

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

内 訳	160 号 (332 p.)	161 号 (206 p.)	計 (538 p.)
印刷費	1,716,440	1,031,030	2,747,470
抜刷代	44,220	23,760	67,980
合 計	1,760,660	1,054,790	2,815,450

※組版・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送費	160 号	161,582
	161 号	158,507
合 計		320,089

事務委託費

4,500,870

2021 年 4 月分～2022 年 3 月分

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

374,000 円×12 ヶ月＋郵便振替受払書類出力 12,870 円

大会関係費

内 訳	第 162 回	第 163 回	計
プログラム印刷費	0	0	0
予稿集作成費	193,325	203,225	396,550
その他印刷費 / 備品	0	0	0
プログラム発送費	0	0	0
その他発送費	9,408	4,788	14,196
大会費	1,099,480	1,062,553	2,162,033
講師謝金等	50,000	0	50,000
託児関係費	0	0	0
手話通訳謝礼	0	0	0
大会実行委員長経費補助	0	0	0
ノートテイキング補助	0	0	0
応募フォーム管理費	11,000	11,000	22,000
合 計	1,363,213	1,281,566	2,644,779

評議員会費

0

常任委員会費	
日当 (2回)	78,000
編集委員会費	
日当 (2回)	52,000
英文校閲 (特集論文告知)・翻訳 (査読要領)	56,134
『言語研究』129～147号 J-STAGE 掲載	458,150
J-STAGE 投稿査読システム費	51,700
合 計	617,984
大会運営委員会費	
日当 (3回)	56,000
プログラム英訳謝金	5,350
プログラム作成謝金	60,000
合 計	121,350
広報委員会費	
ホームページ保守管理委託費	165,000
Webmaster 経費補助	120,000
SNS 活動費	180,000
合 計	465,000
夏期講座委員会費	
日当 (2回)	18,000
学会賞選考委員会費	0
倫理委員会費	
日当 (2回)	32,000
国際発信力強化小委員会費	
日当 (1回)	14,000
英文要旨作成ワークショップ (日当, 謝金)	109,780
会長就任講演論文英訳・翻訳・編集謝金 (6編)	1,795,390
Gengo Kenkyu Anthology Vol. 1	387,750
(PDF作成, J-STAGE 登載作業)	
合 計	2,306,920

事務局費

日当 (4回)	26,000
旅費	460
英訳謝金 (会長挨拶)	14,620
事務局長, 事務局委員活動費	600,000

合 計	641,080
-----	---------

学会賞費

論文賞副賞 (1件)	50,000
発表賞副賞 (4件)	40,000

合 計	90,000
-----	--------

多様性プロジェクト (公募型) 費

500,000

夏期講座経費

8,000

言語系学会連合費

50,000

CIPL 負担金

120,000

CIPL 言語学文献一覧編集補助費

0

通信費

切手購入, 通常発送費	37,544
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	39,600
会費請求・督促送料	129,528
オンラインクレジット決済手数料	112,537
自動引落手数料	48,229
送金手数料	144,150
残高証明発行手数料	1,753
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	22,827

合 計	536,168
-----	---------

消耗品費

振替用紙印刷費	42,404
封筒印刷費	89,100
事務処理票	13,750
事務用品費	6,160

合 計	151,414
-----	---------

雑費	0
名簿作成費	0
選挙関係費	0
税理士顧問料	
顧問料	198,000
年末調整・法定調書作成	33,000
決算料	110,000
合 計	341,000
法人税	
法人市民税	50,000
法人府民税	20,000
合 計	70,000
予備費	
日本学術振興会賞推薦書籍購入・資料コピー代	22,564
GEAHSS 分担金	10,000
合 計	32,564
基金への繰入	
選挙関係	200,000
多様性プロジェクト（公募型）	500,000
夏期講座	500,000
情報保障関係	500,000
合 計	1,700,000

◇ 2020 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	12,000,000	11,831,500	△ 168,500
雑誌売上	600,000	859,600	259,600
科学研究費補助金	4,000,000	4,000,000	0
科学研究費補助金利息	0	16	16
預金金利	500	243	△ 257
大会関係収入	1,600,000	1,959,000	359,000
広告料	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑益	0	276,132	276,132
基金から繰入	0	0	0
夏期講座準備金返納	0	0	0
収入合計	18,200,500	18,926,491	725,991
前期繰越金	9,007,036	9,007,036	0
合計	27,207,536	27,933,527	725,991

支出 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	4,200,000	2,815,450	1,384,550
発送費	400,000	320,089	79,911
事務委託費	4,406,400	4,500,870	△ 94,470
大会関係費	3,000,000	2,644,779	355,221
評議員会費	200,000	0	200,000
常任委員会費	500,000	78,000	422,000
編集委員会費	1,500,000	617,984	882,016
大会運営委員会費	500,000	121,350	378,650
広報委員会費	1,000,000	465,000	535,000
夏期講座委員会費	200,000	18,000	182,000
学会賞選考委員会費	250,000	0	250,000
倫理委員会費	500,000	32,000	468,000
国際情報発信力強化小委員会費	3,500,000	2,306,920	1,193,080
事務局費	900,000	641,080	258,920
学会賞費	200,000	90,000	110,000
多様性プロジェクト(公募型)費	1,000,000	500,000	500,000
夏期講座経費	0	8,000	△ 8,000
言語系学会連合費	50,000	50,000	0
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	0	200,000
通信費	900,000	536,168	363,832
消耗品費	350,000	151,414	198,586
雑費	0	0	0
名簿作成費	0	0	0
選挙関係費	0	0	0
税理士顧問料	334,800	341,000	△ 6,200
法人税	70,000	70,000	0
予備	1,302,916	32,564	1,270,352
(基金への繰入)			
選挙関係積立金	200,000	200,000	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	500,000	500,000	0
情報保障関係積立金	500,000	500,000	0
支出合計	27,284,116	18,160,668	9,123,448
次期繰越金	0	9,772,859	△ 9,772,859
合計	27,284,116	27,933,527	△ 649,411

◇資産勘定

2022年3月31日（単位：円）

借 方	金 額	貸 方	金 額
事務支局		前受会費	
現金	84,593	国内通常	49,000
みずほ銀行口座	9,857,101	前受金	168,600
郵便振替口座	1,368,254	未払金**	2,910,114
科研費口座	320,877	源泉税預り金	47,052
夏期講座口座	692,000		
未収金*	624,800	次期繰越	9,772,859
計	12,947,625	計	12,947,625

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2021年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
雑誌売上（松香堂書店分）	624,800
合 計	624,800

** 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2021年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』161号印刷費	1,031,030
『言語研究』161号抜刷代	23,760
『言語研究』161号発送費	158,507
『言語研究』161号封筒代	24,750
事務委託費2月	374,000
事務委託費3月	374,000
『言語研究』129-147号 J-STAGE掲載	458,150
会費払込用紙	3,547
大会発表応募フォーム費用	22,000
ホームページ保守管理委託費	165,000
郵便振替受払書類出力作業費	12,870
税理士顧問料1～3月	49,500
税理士決算料	110,000
税理士年末調整報酬	33,000
法人税	70,000
合 計	2,910,114

◇基金 決算

基金 損益計算書

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	12,505,701	一般会計へ支出	0
一般会計から繰入	1,700,000		
定期預金金利	67		
収入合計	14,205,768	支出合計	0
		次期繰越金	14,205,768
計	14,205,768	計	14,205,768

基金 資産勘定

2022年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	10,400,000	積立金	14,205,768
京都銀行定期預金口座	3,805,768		
計	14,205,768	計	14,205,768

○基金内訳（目的別）

2022年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	1,000,803
夏期講座積立金	4,301,111
危機言語プロジェクト積立金	703,051
e-ジャーナル積立金	2,500,803
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	2,800,000
選挙積立金	900,000
情報保障関係積立金	1,500,000
計	14,205,768

○基金内訳（銀行別）		2022年3月31日（単位：円）	
銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,803
みずほ銀行	078	夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	081	〃	500,000
みずほ銀行	082	〃	200,000
みずほ銀行	085	〃	500,000
みずほ銀行	088	〃	500,000
みずほ銀行	093	〃	500,000
京都銀行	005	〃	1,401,111
みずほ銀行	074	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	403,051
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,000,803
みずほ銀行	073	〃	1,000,000
みずほ銀行	075	〃	500,000
みずほ銀行	076	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	077	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	079	〃	500,000
みずほ銀行	080	〃	500,000
みずほ銀行	083	〃	500,000
みずほ銀行	084	〃	500,000
みずほ銀行	091	〃	500,000
みずほ銀行	086	選挙関係積立金	200,000
みずほ銀行	089	〃	500,000
みずほ銀行	094	〃	200,000
みずほ銀行	087	情報保障関係積立金	500,000
みずほ銀行	090	〃	500,000
みずほ銀行	095	〃	500,000
計			14,205,768

【別表 2】 2022 年度日本言語学会予算

自 2022 年 4 月 至 2023 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	11,800,000	刊 行 費	4,200,000
雑 誌 売 上	600,000	発 送 費	400,000
科学研究費補助金	4,000,000	事 務 委 託 費	4,500,870
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	3,000,000
預 金 金 利	250	評 議 員 会 費	200,000
大 会 関 係 収 入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	500,000
夏 期 講 座 関 係 収 入	2,800,000	編 集 委 員 会 費	1,500,000
広 告 料	0	大 会 運 営 委 員 会 費	500,000
寄 付 金	0	広 報 委 員 会 費	1,000,000
雑 益	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
基金からの繰り入れ	1,000,000	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	250,000
夏 期 講 座 準 備 費 返 納	0	倫 理 委 員 会 費	500,000
		国 際 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	3,500,000
		事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	1,000,000
		夏 期 講 座 関 係 経 費	3,766,270
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		C I P L 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助	200,000
		通 信 費	900,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	341,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	2,232,969
		(基 金 へ の 繰 入)	
		名 簿 作 成 積 立 金	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	0
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
		基 金 預 け 替 え	0
収 入 合 計	21,800,250	支 出 合 計	31,581,109
前 期 繰 越 金	9,780,859	収 支 差 額 (次 期 繰 越 金)	0
合 計	31,581,109	合 計	31,581,109

第 164 回大会

期日 2022 年 6 月 18 日 (土)・19 日 (日)

会場 オンライン (Zoom および oVice)

公開特別シンポジウム 6 月 19 日 (日) 14:00 ~ 17:00

「言語脳科学が切り開く言語学の未来」

企画：太田 真理

(S-1) 脳科学と言語学の共同研究について考える

酒井 邦嘉

(S-2) 新たな言語の獲得において多言語話者で増進した脳活動—MRI 装置を用いた実証研究

梅島 奎立

(S-3) 理論言語学者が見た言語脳科学

中村 一創

(S-4) 言語学と脳科学の共同研究には何が足りないか？

太田 真理

口頭発表

—第 1 日 (6 月 18 日 (土)) 10:20 ~ 15:50—

◦ A 会場

(A-1) 10:20 ~ タガログ語において名詞の意味が語順にもたらす影響

林 真衣

(A-3) 11:40 ~ チェコ語における所有の与格の統語的性質—所有対象に焦点を当てて—

松山 芳瑛

(A-4) 13:20 ~ ノルウェー語で *komme* 「来る」はいつ使われるのか：ビデオ実験による分析

谷川みずき

(A-5) 14:00 ~ 存在表現の生起条件に関する英独対照—実験的手法を用いて

長屋 尚典

菅谷 友亮

大喜 祐太

(A-6) 14:40 ~ A Study on the Usage of Demonstratives in Sinhala Discourse (Including cognitive and statistical analysis)

Anusha Manoji WEERAKKODI

(A-7) 15:20 ~ バスク語の動詞 *ari* 「する」と共起する副詞は補語か修飾語か

石塚 政行

◦ B 会場

(B-1) 10:20 ~ 名詞述語を伴う繰り上げ構文としての人魚構文

田口 智大

(B-2) 11:00 ~ 日本語の副詞的表現による主語に対する指向性の成立条件

難波 えみ

(B-3) 11:40 ~ 日本語における対比のハは焦点ではなく主題である

中川奈津子

(B-4) 13:20 ~ 「なぜ」を含む多重疑問詞疑問文に関する認知言語学的考察

林 由華

(B-5) 14:00 ~ 「るなら」と「たなら」の使い分け

森 貞

(B-6) 14:40 ~ 体言化理論によるサンスクリット語関係節の再分類および体言化辞 *yad* の通時的变化

尹 聖樂

張 倩倩

(B-7) 15:20 ~ ロシア語の形容詞短語尾形について

水野 庄吾

◦ C 会場

(C-1) 10:20 ~ 「それも」構文の省略分析

大久保 弥

(C-2) 11:00 ~ 名詞化の方法

北田 伸一

(C-3) 11:40 ~ 非範疇「と」の統一分析—自由付加と統語環境をめぐって

宗像 孝

(C-4) 13:20 ~ 与格交替における CAUSE-HAVE について

嶋村 貢志

(C-5) 14:00 ~ 主観化の観点から *always* と共起した進行形についての考察

福田 純也

(C-6) 14:40 ~ 直喩表現と前提性

森 創摩

三好 伸芳

窪田 悠介

(C-7) 15:20 ~	琉球諸語における二重使役構文の述語形式	當山 奈那
◦ D 会場		
(D-1) 10:20 ~	最上級修飾語の QUD-sensitivity: 新グライス派と構造理論によるアプローチ	井原 駿 水谷 謙太
(D-2) 11:00 ~	もう一つの Exhaustification の三値理論: 選言における不知推論のケーススタディー	徐 子程
(D-3) 11:40 ~	Subject-honorific markings in imperatives: An OT-driven dynamic pragmatics	Akitaka YAMADA
(D-4) 13:20 ~	東チナンテク語の格配列	中本 舜
(D-5) 14:00 ~	トラパネク語の声調拡張と有標性パラドクス	内原 洋人
(D-6) 14:40 ~	語構造の観点から見た広東語フットの考察	陳 凱橋
(D-7) 15:20 ~	蘭銀官話の“V 給”構文の多機能性—与害用法を中心に	趙 蓉俊子
◦ E 会場		
(E-1) 10:20 ~	動詞由来複合語の統辞構造—日本語・日本語における観察から	浅田 裕子
(E-2) 11:00 ~	日本語(愛媛方言)における接続詞としての非手指表現(NMM)について	上田由紀子 内堀 朝子
(E-3) 11:40 ~	日本語(愛媛方言)に見られるいわゆる等位接続構造制約違反について	内堀 朝子 上田由紀子
(E-4) 13:20 ~	モンゴル語の存在を意味する動詞 <i>bajna, bajгаа, bajdag, bij</i> の使い分け	ムンフダラム・ハスハヤル
(E-5) 14:00 ~	モンゴル語 2 人称所有接語の非所有用法: 3 人称所有接語との比較から	外賀 葵
(E-6) 14:40 ~	副詞「せっかく」における日中韓対照研究—「特意 (<i>teyi</i>)」と「모처럼 (<i>mocheoreom</i>)」との比較を通して—	許 燕
(E-7) 15:20 ~	アラビア語チュニス方言の 3 人称単数独立人称詞の談話モダリティ用法と主題化	熊切 拓
◦ F 会場		
(F-1) 10:20 ~	ひとはなぜ高速な言語処理ができるのか—BCCWJ-EyeTrack を用いた予備的調査—	矢野 雅貴
(F-2) 11:00 ~	ミスマッチ陰性電位による連濁の神経基盤の検討: ライマンの法則の違反と音韻的逸脱は異なるか?	太田 真理 田中 颯真 山田 絵美
(F-5) 14:00 ~	トルコ語における事象統合と補文節の選択: コーパスに基づく量的研究	鈴木 唯
(F-6) 14:40 ~	キルギス語における「素早さ・突然性」を表す補助動詞	アケタリエフ・ジャクシク
(F-7) 15:20 ~	ウズベク語における小詞 <i>=chi</i> の機能	日高 晋介

ポスター発表

—第 1 日 (6 月 18 日 (土)) 16:00 ~ 17:00—

(P-1)	推量を表すダロウと意志を表すシヨウの疑問再考	金子 真
(P-2)	ハワイ語の方向詞における「基準点」の選択	岩崎加奈絵
(P-3)	ベトナム語北部方言の声調体系の再考: 音声の産出情報に着目して	山岡 翔
(P-4)	富山県富山市方言の動詞アクセントにおける蜷気楼促音	菅沼健太郎
(P-5)	裁判档案から見る清代口語の南北諸相	落合 守和
(P-6)	代名詞代用・呼びかけ表現の多言語データセット	谷口 龍子 大久保 弥 野元 裕樹 南 潤珍

ワークショップ

—第2日(6月19日(日))10:00～12:00—

◦ワークショップ1

- (W-1) 叙述類型研究の新たな試み—非典型的な事象叙述・属性叙述をめぐって—
企画者・司会者：眞野 美穂
- (W-1-1) 事象から属性へ—ラレル形動詞構文の事例— 益岡 隆志
- (W-1-2) 動作動詞の属性叙述機能について—主題標識のない中国語の工夫—
沈 力
岩男 考哲
- (W-1-3) 知覚表現による属性叙述
—「ガスル」型の文と「ヲシテイル」型の文の主題—
- (W-1-4) 名詞述語文による事象叙述 眞野 美穂

◦ワークショップ2

- (W-2) 語彙と語用のはざままで 企画者・司会者：日高 俊夫
コメンテーター：中谷健太郎
- (W-2-1) 動詞「掘る」の多義性について 澁谷みどり
- (W-2-2) 3種類の *kkō*—接辞と慣習的推意の接点— 木戸 康人
- (W-2-3) 「普通においしい」は何が普通なのか？ 日高 俊夫
- (W-2-4) 節周縁部と「じゃないか」系表現 森山 俊成

◦ワークショップ3

- (W-3) 日琉祖語再建に向けての新たな展望：琉球諸語の視点から
企画者：セリック・ケナン
司会者：青井 隼人
コメンテーター：平子 達也
- (W-3-1) 日琉祖語の韻律体系再建に向けて—今後の課題— 松森 晶子
- (W-3-2) 琉球祖語における非狭母音 *e, *o の再建の再検討 中澤 光平
- (W-3-3) 音節名詞第 4/5 類に対応する琉球祖語 B 類は改新であるとする仮説
五十嵐陽介
- (W-3-4) (先) 日琉祖語の語形成に関する試論 セリック・ケナン

◇退 会

国内通常会員： 82 名
在外通常会員： 5 名
国内学生会員： 41 名
在外学生会員： 1 名
国内团体会員： 2 名
131 名

◇入 会

国内通常会員： 43 名
在外通常会員： 1 名
国内学生会員： 42 名
在外学生会員： 1 名
87 名

2022 年度役員

【会長】

福井直樹

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥, 窪蘭晴夫, 柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 松本克己

【常任委員】

有田節子, 上山あゆみ, 太田真理, 奥 聡, 北原久嗣, 北原真冬, 桐生和幸, 酒井弘, 菅原彩加, 成田広樹, 原田なをみ

【事務局】

石井透 (事務局長), 秋庭大悟, 小林ゆきの

【評議員 (70名)】

青木博史, 有田節子, 五十嵐陽介, 石井透, 伊藤たかね, 井上優, 上田功, 上山あゆみ, 内堀朝子, 梅谷博之, 江口正, 江畑冬生, 大沢ふよう, 大津由紀雄, 萩野綱男, 奥 聡, 尾谷昌則, 越智正男, 小野尚之, 小野創, 風間伸次郎, 加藤重広, 河内一博, 菊澤律子, 岸本秀樹, 北原久嗣, 木部暢子, Catt Adam, 桐生和幸, 金水敏, 久保智之, 窪蘭晴夫, 窪田悠介, 呉人恵, 小泉政利, 小林正人, 近藤泰弘, 斎藤衛, 酒井弘, 佐々木冠, 定延利之, 下地理則, 杉崎敏司, 滝浦真人, 田窪行則, 竹沢幸一, 千田俊太郎, 塚本秀樹, 中川裕, 中谷健太郎, 長屋尚典, 中山俊秀, 那須川訓也, 西村義樹, 新田哲夫, 野田尚史, 長谷川信子, 林 徹, 林範彦, 早津恵美子, 広瀬友紀, 堀江薫, 益岡隆志, 町田健, 松浦年男, 松本曜, 宮本陽一, 山越康裕, 由本陽子, 吉田和彦

【編集委員会】

呉人恵 (委員長), 青木博史, 安藤智子, 江畑冬生, 加藤重広, 小西いずみ, 小山哲春,

土橋善仁, 中川裕, 長屋尚典, 野村益寛, 広瀬友紀, 宮本陽一

【特別編集委員】

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金周源, Terje Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester, 富岡諭

【大会運営委員会】

江畑冬生 (委員長), 浅原正幸, 大島ダイヴィッド義和, 大滝宏一, 衣畑智秀, 金廷珉, 黒木邦彦, 品川大輔, 柴崎礼士郎, 白井聡子, 星英仁, 松浦年男, 米山聖子

【広報委員会】

内藤真帆 (委員長), 大関洋平, 児倉徳和 (英語ページ webmaster), 志波彩子, 杉崎敏司, 中川奈津子, 安永大地 (日本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

田中真一 (委員長), 内堀朝子, 木山幸子, 古賀裕章, 千田俊太郎, 堀博文

【学会賞選考委員会】

酒井弘 (委員長), 五十嵐陽介, 北原真冬, 桐生和幸, 小林正人, 菅原彩加, 成田広樹

【倫理委員会】

小林正人 (委員長), 上田由紀子 (副委員長), 大崎紀子, 太田真理, 折田奈甫, 江口正, 塩原朝子, 宮本陽一

【国際発信力強化小委員会】

佐々木冠 (委員長), 阿部宏, 李勝勳, 大関洋平, 小野創, 澤田英夫, 原田なをみ, 平子達也, 山越康裕

【会計監査委員】

藤代節, 米田信子